

14けんり春闘始動!

要求実現の闘いをつくろう!

12月14日、「14けんり春闘発足集会」が行われた。アベノミクス第三の矢である成長戦略と称し、労働者をはじめ東北の被災者、農民、漁民など国民多数に犠牲を強いる安倍政権への怒りと危機感に満ちた集会となった。例年より2ヶ月ほど早く結成した「14けんり春闘全国実行委員会」と共に、全労協の14春闘が開始された。

共同代表の全港湾・伊藤委員長の代表挨拶は、「大企業だけベア1%以上の要求では定昇もない中小は闘う以外にない、賃上げと共に最賃・公契約条例を闘い取るため、公務、民間中小、非正規が一体となって闘う14春闘としよう」と呼びかけた。

ついで議案は「14春闘を新自由主義再復権のなか非正規労働者との連帯を求めた官民共闘を主軸として闘い、全ての労働者に1万7千円円の賃上げを要求する」「日米軍事一体化で憲法9条改悪を狙う安倍政権と闘う14春闘は、労働法制全面改悪と消費税増税に反対し、公務員労働者攻撃、公共サービス低下のと闘いや沖繩の辺野古新基地建設反対など全ての領域で安倍政権と闘う春闘を作りだそう」と提起され、14



けんり春闘全国実行委員会が発足した。

二部では、週刊東洋経済記者の風間直樹氏から「労働法制論議の裏に潜むもの、労働現場の実態から」と題した講演が行われた。世界で急成長を続けるユニクロの柳井社長は「社員はいらない同志を求めると労働者の権利を主張する者はいらないと公言し、膨大な作業に追われる名ばかり管理職の実態、社員の3年以内離職率は5割を超え、うつ病罹患も深刻なユニクロの実態を暴露した。また、安倍政権の雇用労働戦略の狙いは労働法番外地、その

女性差別撤廃委員会の勧告を実現するチャンスだったのだ!

〽省令・指針の改定に終わった均等法!〽

2012年10月から均等法改定に向けた労働政策審議会雇用均等分科会が開催され、昨年9月27日「今後の男女雇用機会均等対策について(報告)」が出された。11月13日から1カ月間パブコメが募集され、12月20日の雇用均等分科会で800件の意見の概要が紹介されたものの、報告どおりの対策が確認された。

女性委員会はパブコメに意見を届け、9月末に浅倉むつ子さん、中野麻美さんら15名の呼び掛けによる「緊急アピール 男女雇用機会均等法を男女平等法に!」にも賛同した。均等法に「差別の定義」を明示し、賃金も均等法の対象にして男女賃金格差是正の実効性を高めるチャンスだったが、省令・指針の改定に終わったのは残念だった。しかし使えるところは活用していこう。

均等法施行規則の改正省令などのポイント(施行は2014年7月1日)

第6条(差別の禁止) 関連:結婚を理由とする職種の変更や定年の定めについて男女異なる取り扱い事例を

本丸はホワイトカラーエグゼンプションと指摘し、トヨタなど内向きで労使協調と生産性向上を叩き込まれた労働運動では安倍政権と財界の攻撃には闘えない、労働運動は社会の不条理に立ち向かうべしとした2003年連合評価委員会最終報告を例に、労働組合の社会的役割を強く訴えた。

第三部では、労働法制改悪を闘う雇用共同アクションから中小労組ネット・平賀事務局長をはじめ、10名から職場の闘いの報告と14春闘をストライキで闘う決意が述べられた。

最後に田宮けんり春闘共同代表から「労組を舐めるな!」と力強いまとめと、金澤全労協議長・共同代表から14春闘を労働組合の団結と連帯を結集して闘う決意の団結ガンバローで集会を締め、14けんり春闘がスタートした。

指針に追加

第7条(間接差別) 関連:間接差別の転動要件から総合職の限定を削除し、昇進・職種の変更を措置の対象に追加の省令改正(すべての労働者の募集・採用、昇進、職種の変更に当たって合理的な理由なく転動要件を設けることは間接差別に該当することに)

コース等で区分した雇用管理の留意事項(局長通達)を指針に格上げする

セクシャルハラスメント予防・事後対応の徹底など指針の改正(セクハラには同性に対するものも含むこと、セクハラ発生の原因や背景には性別の役割分担意識に基づく言動もあり、こつした言動をなくすことがセクハラ防止の効果を高めるうえで重要なことなど)

JAL不当解雇撤回の闘い

判決の日程が決まりました。

客乗裁判 2014年5月15日(木)
乗員裁判 2014年6月5日(木)
両裁判とも、東京高裁101号法廷、
時間も13時半から。

18回大会おめでとう！ 全統一労組千葉市非常勤職員分会

全統一千葉市非常勤職員分会は図書館で働く非常勤職員です。

1995年12月に6か月雇止め撤回を求めて数人で組合を設立。さまざまな権利を獲得し12月2日には第18回定期大会を開催しました。

大会では来賓の皆様から激励のお言葉をいただき、1年の活動報告、会計報告、来年の活動方針などを報告し新たな決意のもと、均等待遇を求めて活動していくことを誓いました。

午後からは、少人数に分かれてグループミーティングを行い、テーマに添いながらも、そこは女性のこと、話がある



ちらとちらと逸れながらも熱のこもった意見交換の時間が許す限り行いました。

私のお気に入り！

自転車で散歩

不当な破産・全員解雇から1年5ヶ月が過ぎました。解雇されてから毎朝5時に起き身繕いをして5時半頃から、往復4キロの道のりを自転車で走っています。

私の住む柏市は野菜畑も多く、静かな早朝の冷たい空気を斬って走るのはとても気持ち良く、一日の始まりとして欠かすことができません。いつも決まって、同じ場所で早朝の散歩をする人たちと挨拶を交わすのも楽しみで、途中の坂道では、自転車を降りずに立ってペダルを踏み走り抜けることを、足腰を鍛える筋トレと思って頑張っています。そして、林のなかにあるお諏訪様にお参りして、闘いの勝利を願っています。

私は、故郷の新潟県旧山古志村から上京して、活字の時代から長くフジビの職場に出向して働いてきました。フジビ創業家の田中一族四代目社長は子供の頃から知っています。地域では有名な資産家の田中一族の横暴で余りにも理不尽な解雇と組合つぶしを決して許すことはできません。1月29日にフジビ闘争支援共闘会議結成の集会和デモが行われ、当該組合員の私たちは大きく励まされました。働く仲間の方々のご支援に心から感謝しています。

また、フジビ闘争の物販として「昔ながらの豆菓子・長寿豆など」を販売しています。この豆菓子は、新潟県小千谷市のお菓子屋さんが家族で作る豆菓子です。農家の方々が持ち込んだ大豆などをお菓みに製造してくれる地域に根ざしたお菓子屋さんを作る「長寿豆」を皆さんご賞味ください。

全国一般東京労組フジビグループ分会 関 久美子

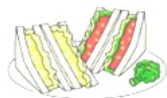
参加して良かった 女性委員会総会！

三多摩労働組合青伸グループ分会の橋本かおると申します。

2013年11月22日(金)、初めて女性委員会に出席しました。同年5月に所属労組の書記長になり、今までは他人任せの組合活動をしていたので、ものすごく焦りはじめました。そこで「総会に参加すれば絶対に勉強

になる」「金曜日だし飲んで帰っても大丈夫」と思い、心細さもありませんが、メトロコマースの闘いのDVDと替え歌に感動し、色々な職場での取り組みや闘い、たくさんの方の体験談を聞き、とても勉強になりました。おいしいビールとおつまみ、とても有意義な時間でした。有難うございました。

三多摩労働組合青伸グループ分会
橋本かおる



この目で確認した福島の今！ ③

<女性委員会交流合宿から>

除染土や除染ゴミを仮置きしたままでは状況は変わらない

スタディツアー2日目、東北全労協の亀谷さん運転のマイクロバスに乗って放射能汚染で避難を余儀なくされた楢葉町、富岡町に向け出発。バスには富岡町の高野さん、大熊町の木幡さん、ふくしま連帯労組の組合員が同乗してくれた。連帯労組が用意してくれた2台の測定器とツアー参加者持参の測定器をバスの窓辺に置き、バスは進んだ。11時前、広野町通過、私の持参した測定器は0.12μシーベルトを表示、楢葉町に入ると田んぼには汚染土をいれた大きな袋があちこちに並び、測定器は0.17となった。連帯労組の佐藤さんの実家のそばも通ったが、外観はそれほど壊れてはいないが、屋根はどこの家も青いビニールシートがかけられていた。風や台風でシートが外れ、家の中はカビだらけという。

高野さんの案内のおかげで富岡町臨時役場から汚染地域に入るための防具を数セットもらい、それぞれ持参の雨合羽やバスキャップ、マスク、手袋を身につける。富岡駅前に立つ。駅も駅前の商店街は破壊された当時のままだ。除染が行われていない富岡町に入るとすすきとセイタカアワダチソウの黄色い花の波で、どこが田んぼだったのかもわからない。測定器の数字が増えていく。私の測定器は0.3を超えるとアラームが鳴る設定でこのころからアラームが鳴りっぱなしになった。高野さんの自宅前でバスを下車、測定器は3.4μシーベルトを示し、道路近くの草むらに近付けると6となった。

眼の前の田んぼはやはり黄色い花の波だった。高野さんの家の奥は立ち入り禁止区域、看板と道路工事用のバーで仕切っただけだ。奥の方で牛の鳴き声が聞こえた。

家の周りにはイノシシの掘ったあとや駆け回った足跡もあった。更にバスで富岡の街中を巡る。道の片側は立ち入り禁止区域で低い柵が設けてあるが空気は繋がっている。しかし補償金が違う、線引きの矛盾が良くわかる。

バスに戻って第二原発に向かう。ここでスクリーニングを受ける。カップ類やマスクなどすべてを脱ぎ去り、靴の裏の放射能を測定してもらう。ここでも放射能は0.18だった。これらの施設の周りには警備の警察官や、民間の警備員が立って案内や監視をしているが、彼らは若いのにマスクもしていない。天神岬に着く。テニスコートやサイクリングロードなどがあり広々とした施設だ。モニターは0.515を示していた。岬の展望台からは東電の火力発電所が見え、海は何事もないかのようにだったが、ここで子供たちが遊ぶ姿はもう見ることはできない。

テニスコートには汚染土や汚染ゴミを詰めた大きな袋が雑然と積み上げられていた。バスに戻ってJビレッジを横に見ながら道の駅四倉に向かった。

